

言語文化「羅生門」

7時間扱い

単元の目標

- ◎主人公の心情の変化を、事件に照応して読み取れる
- 文章表現から、筆者の独創性に気づける

評価規準

知識・技能	言葉の特徴や使い方に関する事項(ウ) 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、語感を磨き語彙を豊かにすること。
思考・判断・表現	読むこと(ウ) 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価すること。
主体的に学習に取り組む態度	我が国に関する語彙を増やし、語感を磨くことで、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価しようとしている。
知識・技能	羅生門の作品内に出てくる言葉について、語義や使われ方を理解し、作品内の世界観や舞台状況などの手助けとする。
思考・判断・表現	①登場人物の心情の変化を、事件に照応して読み取ることが出来る。 ②特徴的な比喩や表現を通して、芥川龍之介の独創性に気づく。

単元の流れ

次	時	主な学習活動
一	1	小説の特徴や、作者の背景、本教材のテーマについて知る。
二	2	下人の現状の背景・心境・苦悩について読み取る。
	3	老婆を発見してから飛び出すまでの心情変化を読み取る。
	4	老婆の論理を聞くまでの下人の心情変化を読み取る。
	5	老婆の論理を読み取り、それに対する下人の心情を解釈する。
三	6	「下人の行方」を創作する。
	7	「下人の行方」を共有し、大賞を決める。

授業づくりのポイント

単元で育てたい資質能力

本単元のねらいは、事件の発生・展開によって起こる主人公の心情の変化を読み取る力を育むことである。そのために、主人公の心情部分に着目し、その前後での外部刺激を見つけ出すこと、さらに心情表現の大まかな部分を読み取ることで、主人公の心情変化の経緯を探ることができるようにする。その大前提として、「心情描写」と「風景描写」を区別する力を養うことも重要となる。

具体例

楼へと上りかけた下人は、老婆の姿を発見した途端に感情が動き出し、老婆が死体の髪を引き抜く姿を見た後や、刀を突きつけた後に、心情が滑らかに推移していく。すべて老婆の動きを起点にして下人の心情が動く点をとらえさせていきたい。同形式段落の中に、心情と風景が両方描かれていることにも留意させる。

教材・素材の特徴

「羅生門」は、視点描写と比喩の巧みさが特徴的な物語であり、その独特な表現やメタ的な要素、さらには「にきび」に代表されるシンボリックなアイテム描写など、修辞法の工夫が目立つ教材である。また、主人公である下人とほぼ同一（完全に同一ではないことに留意）の視点から描かれるため、外界に対する下人の印象が、そのまま文章表現に発現してくることも大きな特徴である。さらに、今昔物語集に原典となる「羅城門」、「羅生門」（正確には藪の中）を下敷きにした映画、「羅生門」など、他の作品との比べ読みが可能なのも魅力的な点といえる。

具体例

三人称視点ではあるものの、カメラは主人公である下人の真後ろ、という視点のとらえかたをまずは押さえない。それまでの学習で、一人称と三人称と区別はあれども、三人称の際の「距離感」に気づかせるということも、作品と作者の関係性をとらえる意味で重要である。この距離感は、作者と主人公との距離をそのまま示しており、主人公の苦悩はそのまま作者の苦悩ともつながっていることを示唆する。

言語活動の工夫

発展的なクラスであれば、場面の一部を切り取って絵コンテを作らせるという方向もある。これをグループ単位で作ることで、映像解釈（福永的独語）の読み取りのトレーニングになる。たとえば第2場面の始まりをどのようなカットから始めるか。あるいは第4場面の下人が老婆へ迫るシーンを、どうやればスピーディに描けるか。第5場面の老婆ののぞき込むシーンを、どのアングルから描き出すか、など。
基礎的な学びとなれば、第2場面から第5場面までの下人の心情を円グラフ化変遷でとらえるなどが考えられる。単元の目標としては、こちらの方が優先されるべきか。心情は喜怒哀楽の単純なものではなく、複合的なものであることも伝える。

羅生門(2／7)

本時の目標

- ①主人公の現状、背景、苦悩を読み取ることができる。
- ②物語内に描かれる象徴的アイテムについて気づく。

本時の具体的評価づけ

- ①京都の衰退が下人を追い詰め、生きるために苦悩していることに気づく。
- ②きりぎりすやかからすが、劇中に表れることの意味づけに気づく。

授業の流れ

1

第1場面を音読し、「なぜ下人は羅生門にいるのか」を読み取る。(20分)

前回教師側の提示した内容を振り返ったうえで、範読を聞きながら、「なぜ下人は羅生門にいるのか」についての根拠となる記述を探す。

ケース①

T:なぜ下人は羅生門にいるのですか。

S1:雨やみを待っているから。

S2:仕事をクビになったから。

ケース②

T:どうして下人は仕事をクビになったのですか。

S1:京都が不景気だから。

S2:何かへまをしたから。

多様な読みという意味では②S2の返答も面白い。
しかし根拠を記述に求める以上は、②S2などの発言が出た時にこそ、「それってどこに書いてあったかな?」と問い返そう。

教師側の軸として大事なものは、「根拠は文中にあるのか」ということと、「文中にない場合、解釈としての妥当性はあるのか」ということを一つの方位磁石のようにして生徒の発表・意見をとらえること。

そしてときおり出てくる、教師の解釈や判断を越えるような読み取りには、精査したうえで認めるべきところは認めよう。そしてそれを授業内の「解答」としてもかまわない。自分たちの意見が、正当性が認められる場合においてのみ採用されるという体験は、授業内における生徒側の発言の価値を高めてくれる。

羅生門(2／7)

2

「途方に暮れている」という表現に着目して、下人の苦悩を読み取る。(20分)

小説の特徴として、「主人公は序盤に苦悩を抱えている」という点と「主人公の苦悩は終盤に解決される」という点をここでもう一度押さえておく。そしてこの場面では下人が抱えている悩みについて焦点をあてることを言及する。

ケース①

T:途方に暮れるとはどういう意味ですか。

S1:どうすればいいのかわからなくて困る。

ケース②

T:なぜ下人は「途方に暮れている」のですか。

S1:仕事がクビになったから。

S2:どうすれば生き延びられるかがわからないから。

②S1とS2の違いは因果関係の遠近にある、と考えられる。
正確に言うと、下人が途方に暮れているのは、「生き延びるために悪を行うか、それとも善を選び死に至るかが判断実行できないから」ということになる。
S1もS2も原因のベクトルは同一方向である。
S1が原因でS2となり、最終的には「判断実行できず」に「途方に暮れる」というふう構成され、いずれも不正解ではない。
しかしたとえそれは、時刻を聞かれて、「夕方ごろだよ」と答えるように、間違いではないものの、問いに対する妥当な答えにはいたっていない。

積極的なクラスで、生徒が意見をドサドサと発言していく場合には、その出てくる意見を適切なグループ群に分類し、文中の根拠をもとに検討していく、という活動が必要である。意見が活発に出てくるというのは、生徒と教師との信頼関係が成立している一つの指標だが、なにもかもを無条件に同一評価するのも、逆に言わせるだけ言わせておいて教師が提示する答えを唯一解とするのも、どちらも同じく徐々に発言する意欲を削いでいく。もし生徒に本格的に思考してほしいと思うのなら、適切な問いのもとに、ある一定的確に発表内容をさばく技術が必要になる。

0

Quizletなどを使い、語彙力をつける。

教師が提示したQRコードをICT機器で読み込み、第1場面の言葉の文脈と、その語義について理解・定着させる。その際には、カード機能はもちろん、テスト機能などを教師側が使い方を指示し、次回の自学の機会につなげる。

語彙力を定着させることが、良質な読解につながることを口頭で伝える。口頭で繰り返し、言葉を知ることが世界を広げることになるということを伝え続けることが、国語の先生の役割の大半じゃないかとさえ思う。

語義カードを見ても意味が今ひとつ分からない子には、当然ながら机間巡視しながらの個別対応となる。

羅生門ワークプリント

活動1 第1場面で下人はなぜ羅生門の下にいたのか、100字以内で説明せよ。

活動2 第2場面から第5場面までの下人が出会った事件と下人の心情の変化を表せ。

事件1

を目撃した。

心情1

デバイスのカメラ機能で読み込むとヒント動画が見られます。



事件2

を目撃した。

心情2

事件3

次第であることに気づいた。

心情3

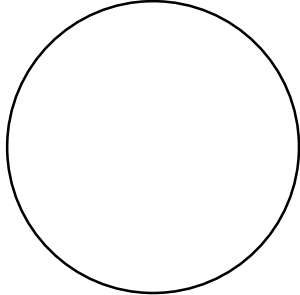
事件4

が

理由が

だと知った。

心情4



- 下人
- 飢饉
- 一通りではない
- 薪
- うめく
- 顧みる
- 狐狸 Qなぜ「狐狸」が表現される？
- 足ぶみをしない
- 刻限＝時間
- 洗いざらした
- 暇を出される
- 衰微
- 余波
- sentimentalism
- 気色
- 手段
- 途方に暮れる
- くさめ
- 大儀そうに
- 火桶

- 蕘(いらか)
- いとまはない
- 築土
- 低徊(ていかい)
- 逢着(ほうちやく)
- 肯定(こうてい)
- かたをつける
- 憂(うれ)え
- 楼(ろう)
- 侮蔑
- 嘲笑
- 存外
- 大目に見る
- 息を殺す
- 高(たか)を括(くく)る
- 這(は)う
- 念を押す
- 語弊
- 憎悪
- 漸次
- 暫時

Quizletで
覚えていこう！

